

すだち

The Tokushima University Library Bulletin

徳島大学附属図書館報 No. 54 1996. 5

目 次

巻頭記事

- 大学図書館のより一層の利用を
一館長に就任してー …………… 1
- 常三島地区の学術雑誌の集中化について …… 2
- 附属図書館の新しい門出を願って …………… 4

トピックス

- 平成7年度学術講演会
『ライブラリアンシップにいま
何が問われているか』 …………… 6
- Current Contents on Diskette
with Abstracts 講習会 …………… 6
- Current Contents on Diskette : Engineering,
Computing and Technology スタンドアロンで
サービス開始(本館) …………… 7
- 電子掲示板設置 …………… 7
- 自己点検評価委員会報告書『大学図書館と学術
情報サービスの発展をめざして』刊行 …… 7

ガイダンス

- 電子メールによる校費学外文献複写・
図書貸借の図書館への申込み(本館) …… 7
- 新規購読雑誌増加に伴う
配架場所拡張(本館) …………… 10

資料情報

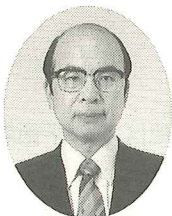
- AV 資料おすすめの1本
ワーグナーのロマン歌劇『ローエングリン』 …… 12
- 学生希望図書一覧 …………… 13
- 本学教官著作寄贈図書一覧 …………… 14

報 告

- 学術講演会『ライブラリアンシップにいま
何が問われているか』を聴講して …… 15

図書館日誌

- 会 議 …………… 15
- 人事往来 …………… 16



大学図書館のより一層の利用を

一館長に就任してー

徳島大学附属図書館長 工学部教授 河野 清

前図書館長青山教授の京都大学への転出を受けて
思いがけず4月から館長の職につきました。教職員
の方々および学生諸君に一層利用してもらえよう
図書館の充実と発展に微力ですがベストを尽くした

いと存じます。

昨今、情報通信の高度化や国際化が進む中で、学
術情報ネットワーク、学内LANなど情報基盤が整
備され、附属図書館は、従来の図書・学術雑誌等の

資料の収集、提供とともに学術情報サービスが重要な役割となっています。附属図書館は、大学における教育、研究を支えるきわめて重要な施設としてその機能を一層強化し、高度化しながら教職員、学生の多様なニーズに対応する必要があります。附属図書館では、平成7年度には自己点検・評価を実施し、地域社会への開放や図書館の在り方を指摘し、今後の充実と学術情報サービスの発展をめざしています。

その問題点の一つに学術雑誌の共同利用すなわち集中化があり、学術雑誌からの新しい情報や研究成果は、教育、研究を進める上で最も重要なものです。今日、研究課題の総合化、複合化、学際化が進んでおり、人文科学、社会科学、自然科学の研究者達が相互にあるいはそれぞれの分野内で連携して研究を行う必要が生じており、可能な学術雑誌は図書館に集中化して有効に活用する時代となっております。現在、常三島の本館では94%、蔵本分館では56%の学術雑誌が教官研究室あるいは学科の図書室に保管されています。

昨年11月30日の常三島地区のアンケート調査によると、集中化に賛成50%、どちらかといえば賛成30%、反対14%、わからない5%などとなっております。集中化の可能な学術雑誌は、図書館に展示して共同利用する方向で、御協力をお願いする次第です。

ところで話題は変わりますが、日本経済の高度成長の成果として物は大変豊かになりました。しかし、心は豊かになったでしょうか？経済優先、効率優先から金がものをいう時代となり、心が貧しくなった

といわざるを得ません。バブルがはじけて住専問題を生じ、そのつけが国民に廻ってきていますし、世界では争いが絶えず、きびしい競争社会のなせるわざともいえますが、思いやりー相手を思う心ーが欠けつつあるのを痛感します。人間が時間に追いかけられ、ゆっくりと読書をする時間がなくなっております。

今日、必要なのは気持のゆとりであり、良書を読んで人生を深く考え、視野を広げ、謙虚な気持で自然とつきあわなければなりません。良書に接することによって、人間は喜びや感動、あるいは希望を与えられます。

現在(平成6年度末)、附属図書館の蔵書は、図書で約71万5千冊、雑誌類で約1万5千種類となっております。人文・社会・自然の3科学分野の専門書をはじめ、内外の作家の小説、全集、その他多数の良書が準備されています。学生諸君、留学生諸君にも、より一層図書館を利用して大いに学んで欲しいと願っています。

また、大学図書館には、学外の公共図書館では閲覧できない資料が沢山あり、地域に開かれた図書館として学外の利用者にも積極的に対応して行きたいと存じます。

今後、附属図書館の教育、研究用としての機能をより充実し、学術情報サービスに一層努める所存です。建設的な御意見をいただければ幸いです。本学図書館を積極的に利用いただくようお願い致します。

常三島地区の学術雑誌の集中化について

附属図書館運営委員 工学部教授 多木敏彦

常三島地区は長らく学習図書館としての性格を重視する傾向が強かったが、ここ数年間で教養部、工業短期大学部が改組され再編されるということに伴い工学部に博士課程が設置され、総合科学部に修士課程が設置され、さらには各国からの留学生が急増するという時代を迎えた。常三島地区での学術雑誌の集中化の問題は十数年前から何度も検討されてきたが、いまだ実現するに至っていないのが現状であ

る。

井上館長の時代から、常三島地区での学術雑誌の集中化を早期に図ることが必要であるとして検討を重ねて来た結果、青山館長になって昨年の秋に常三島地区教官全員に集中化に関するアンケート調査をするに至った。これがこれまでの検討結果の概略ですが、昨年秋のアンケート調査の結果は既に常三島地区全教官にお知らせしてありますが、おおむね賛

成というご意見が回答教官の約80%に達していました。

これらの結果にもとづき、今年度は河野新館長の指導の下に、附属図書館常三島地区運営委員会内に教官2名(総合科学部中嶋教官と工学部多木)と図書館側から隅田課長の3名でプロジェクトチームを構成し検討を続けている。

現在のところ、平成9年1月より集中化を実施したいとの方向は附属図書館常三島地区運営委員の大体の合意である。本来は現在校費で購入している学術雑誌全部を図書館に集中化することであるが収容能力の問題等もあるので第一段階として

- (1) 学科またはコースで集中管理する
- (2) 最初から全て図書館で集中管理する
- (3) 到着後2ないし3週間程度教官のところへ回覧し、その後図書館で集中管理する

という三つの方向が考えられる。この集中化では常三島地区の教官のご理解と図書館員の協力が必要である。もちろん、教官側ではいままで手に置けた雑誌が24時間フルに利用できていたのが、図書館に配置されるためにある程度の利用制限を受けるといふことがある。その半面、今まで購入していなかった多くの雑誌が図書館に行けば閲覧できるという利点もある。図書館側では、いままで雑誌の整理や管理が各教室でなされていたのが、今後集中化されるとこれらの業務が日常業務として追加されるので仕事が増加するという面がある。しかしながら、今後の常三島地区図書館は学術雑誌を集中化して研究図書館としての性格を重視していく必要性があり、時代の要請である開かれた図書館として多くの人々に常三島地区図書館で管理している図書及び雑誌を公開していく義務がある。その一方では、全学共通教育関連の授業が常三島地区で行われている以上学習図書館の性格もないがしろにするわけには行かないのも事実である。常三島地区図書館ではこれらの二面性をうまく調和させる必要がある。

もう少し集中化に踏み込むと以下のようなことが考えられる。まず、前回の増築のときにも、確かに集中化を意識して3階に教官研究雑誌閲覧室が計画されたが、3階の非常に利用しにくいところに申し訳程度に設置された。複写機にしても研究雑誌にしても一部をのぞけば全く不十分であった。今回の集中化に際してはまず利用のしやすいところ、例えば

新館の2階に研究用学術雑誌閲覧室を設置し、配架も分野別にするなど最低限必要である。それと現在書庫の中に配置されている図書でも、特に重要なデータ集などは開架図書として配架し雑誌以外の利用にも便宜を図るべきである。詳細についてはこれからの検討課題ではあるが、これらのことを実施すると図書館員にもかなりの負担がかかる。そのことは十分認識しているが、常三島地区図書館が以前からの学習図書館から研究図書館に脱皮するときの産みの苦しみだと理解し協力を得ない限り、集中化はお題目になり元の教官個人が管理するという体制に逆戻りするのである。これではこれからの図書館としての使命を担うことができなくなる。

さらに、集中化するときの問題点はもう一つある。教官が自己に配分された経費の中から購入している雑誌をどうして図書館に集中化しなければならないのかという点ではあるが、図書及び雑誌は本来共同利用されるべきものである。アンケートの中にも購入費を図書館で負担してほしいとの意見もありましたが、現状の図書館財政ではとても対応できる問題ではない。当面は教官研究費で購入された雑誌を図書館に集中化させていただきたいというのが附属図書館常三島地区運営委員会の見解である。

当面は、学科またはコースでの集中化と基本雑誌の図書館への集中化という二本立で進めたいと思っています。専用のコピー機も十分に設置し、開館時間も延長する、製本された雑誌は一般図書の貸出と同様に10日間にする、OPACで所在及び貸出情報を提供する等利用の便宜を図らなければならない。コピーカードは学部等で使用するものと統一できれば非常に利用しやすくなりますので、今後の検討課題として検討を続けて行きます。

以上いろいろと思いつくままに述べて参りましたが、いろいろご意見があるのは十分承知しております。平成9年1月より一部の雑誌でも結構ですので集中化にご協力いただければと思ひ筆をとりました。ご意見は総合科学部と工学部の図書館運営委員会にお伝えくだされば、常三島地区図書館運営会で検討いたします。忌憚ないご意見をいただければありがたく存じます。

ご意見、ご要望は図書館情報サービス課長隅田までe-mailにてお願い申し上げます。

e-mail address: sumida@lib.tokushima-u.ac.jp

附属図書館の新しい門出を願って

前図書館専門員 尾原 忠雄

本稿を書くに当たって編集担当者から依頼されたことは、長年図書館一筋に勤務された実務経験や思い出、苦労話など何でもよいから書いてくれ、とのことであった。それではと言うことで軽く引き受けてみたが、自己中心的なことを書いても何も面白くないので、何を書けば良いものだろうかと思案するが一向に浮かび上がらない。こうなれば致し方がないので、常日頃思っていたことを羅列することにし、皆様方の批判を仰ぐことにする。

長年同一職場ばかりで過ごし定年を迎えた者を、周りがどのように見るかはさておき、私なりの人生は、青年期から熟年まで図書館に埋没していたことに間違いはない。この間を振り返ってみてみると同一職場でいた者でないとわからないいろいろなことを思い出させてくれる。史的に捉えてみても面白いものである。昭和32年頃は、30年新制大学院の医学研究科が設置された関係で、設置基準を満たすためあちらこちらから集めてきた図書が、書庫内(旧兵舎転用)に山と積まれ、廊下にもその一部が並べられていた。この整理のため職員はおおわらわであったが、その図書たるや、戦後間もなくの出版物や、戦後はアメリカ医学中心となったにもかかわらず戦前もはるか昔のドイツ医学書 *Hundbuch*…などで、まったくど素人の私でさえこれは使い物になるのだろうかと思つたぐらいのものまで整理した思い出がある。その時思つたことは、やはり間違いでなく未だに書架の片隅に埃を被って居眠つたままである。この当時としては止むを得なかったのかもしれないが、受け入れに奔走していただいた諸先生・先輩の労力を思うとよくぞやっていただいたのだと感謝していいのか、笑つていいのか複雑な心境である。こういった状況はこの時期だけでなく50年代に至っても新設医科大学、教育大学の設置の折にもしばしば見られるケースであるが、遅ればせながらも平成3年になり設置基準が改正されたことにより、

設置大学の特色を生かした資料構成を持つことができるようになり、また徒労に終わることも少なくなったと思われる。

戦後50年になるがこの間の物事の変遷ぶりは驚くべきもので、戦後を知るものにとっては、すべてが全くの驚異である。変わらないものは、人間そのものである。しかし、それでも若年層は相対的に新人類とも言える要素をかなり備えているようである。また旧人類よりは知的センスではレベルがかなり高くなっているようだ。図書館の業務内容も全く同様でガリ版からワープロ、貸出カードから電算処理、マイクロ・フィルムから電子複写機へ等々と革新のスピードは早い。図書の目録作成にいたっては通常の場合、図書の内容までも目を通す必要があり、精度の高い目録作成にはそれなりの権威者がいるほどであった。今は学術情報センターとの回線接続により、このデータの取り込みがISBN(国際標準図書番号)の入力等から簡単に行え目録作成が容易となった。また、その結果一枚いちまいのカード作成・カードボックスへの配列挿入の必要もなく、極めて合理的になった。こういったことは反面機械に使われるといった非人間的な方向に向かっていると言えなくもない。本来図書館の仕事は、利用者と直接に顔を向けあって必要なサービスを提供することにあつたが、LANによる情報検索やその上位にあるインターネットなどの利用により、居ながらにしてサービスを受けられる便利さが益々広がることになることは間違いなく、そうなればいわゆる長年培った図書館業務の知識などはあまり重要でなくなってしまう恐れが危機感として生じてきている。このことについては、去る1月に行われた附属図書館の学術情報講演会で、関西大学教授倉橋英逸先生が「ライブラリアンシップにいま何が問われているか」と題した講演のなかでふれられていた。それではどうすれば良いのだろうかと考えてみたが、あまり良薬にな

るものは見当たらない。いまこの稿を書きながら私
なりの処し方について考えてみることにしたい。現
今の図書館業務は、特殊業務を除きルーティン・ワ
ークとなるのは、機械操作による業務処理が中心と
なりつつあり、前述のように非人間的な方向に向か
っている。極端な場合は一日中端末とのにらめっこ
で、それも年間を通してというのも珍しくない。相
手は機械であるので、ぶつぶつ言いながら喧嘩して
も始まらない。まあこういった作業を図書館職員は
身体全体で受け止めることに慣れっこになっている
から出来るのだといえ言えなくもない。この作業
を突き詰めていけば、工場における二次製品の生産
と同様である。なぜこのような例を挙げたかという
と、機械化全体をとらえると従来の作業に比べて能
率が飛躍的に伸びることになり、図書館全体の機能
向上につなげることが命題になるからである。しか
し、その裏付けとなるものは、作業全体にかかる基
礎的書誌学の積み上げがあってこそ現実につながる
からである。このように捉えていけばまだまだ良薬
はありそうである。

バブル崩壊以後社会的景気基盤は大きく後退し、
その上に為替レートの円高基調などが重なり、国内
総生産は、大幅な鈍化をまねくことになった。その
翳りは人件費の安い東南アジアなどの諸国へと生産
拠点が移りつつあり、この傾向は戦後間もなく欧米
がとった経営戦略に類似するようになった。このよ
うな状況下では、企業体など余剰社員を抱えておく
余裕はなく、リストラという再生への構造転換を余

儀なくされつつある。このことと図書館とは同列視
はできないが、人的資源の有効な在り方論は旧弊を
廃するためにも、どうしても避けられない道程とな
ろう。その一つとして資質再生がある。個々の人間
の能力には当然限界があるが、人数を合わせるとも
っと驚くほどの効果的な能力を発揮することがある。
端的な例としては蔵書の配架にみられるように、一
人で作業した場合案外とはかどらないものである。
これを数人以上でやると相乗作用により、より効果
的な配架ができることは経験したものであれば皆知
っていることである。これは、ただ単に配架するとい
うことではなく、事後の蔵書量の伸びや構成の間
違い、資料形態など複数の目・頭でみたとき調整が
円滑に行われるからである。これは組織的に対応す
る初期段階の方法ととらえると分かりやすい。よく
業務計画を推進するためにワーキング・グループを
作って実行に当たるが、これなどは典型的な手法で
グループ全員の参画により資質再生への取り組みが
図られることになる。

とりとめもないことを書いてきたが、この度卒業
することとなる我が図書館も本年3月刊行された
「大学図書館と学術情報サービスの進展をめざして
(自己点検評価報告書)」にまとめられているように、
新しい視点でとらえた図書館がいま芽を吹き出しつ
つある様子がよく分かる。終わりにあたり、その成
果に拍手を送り職員の皆様方の努力に感謝の念を申
し上げ、更なる発展を祈念しつつ稿を終えることと
します。



トピックス

平成7年度学術講演会『ライブラリアンシップにいま何が問われているか』

さる1月25日、関西大学の倉橋英逸教授を講師にお迎えして、平成7年度の「徳島大学学術情報に関する講演会」を開催しました。本講演会は年1回実施しており、最初の平成3年度は井上如氏、4年度は柴田正美氏、5年度は松村多美子氏、6年度は谷口敏夫氏による講演がそれぞれ行われました。これまでの講演では、学術情報システム、電子図書館、インターネットなどのテーマが主体でしたが、今回は、倉橋氏の豊富な経験と学識を踏まえて、特に大学図書館の職員論を中心とした内容でお話いただくこととし、標記の演題でご講演をお願いしました。



今回お招きした倉橋氏は、最初、名古屋大学附属図書館に勤務され、その後、京都大学、筑波大学、新潟大学、東京工業大学、東京大学の各附属図書館の幹部職員として図書館の管理運営に長年携わって来られました。また、この間の昭和57年から60年にかけて、文部省学術情報課の専門員として、学術情

報センターの設立準備や大学図書館のシステム化などに尽力されました。そして、東京大学附属図書館事務部長を退官された平成2年より、図書館情報学の研究者として現職に就かれております。

倉橋氏は、現代の社会にはどのような変動が生じているのか、そのことが大学や大学図書館にどのような影響をおよぼしているか、そのなかで図書館員はどのような能力や役割を求められているのか、これからのライブラリアンシップにはどのような課題が問われているかを、米国の文献等も紹介しながら講演されました。

講演には、学内はもとより、県内外の高等教育機関から多数の関係者が参加しました。講演のあと、活発な質疑応答が行われ盛会のうちに終了しました。

なお、本号に講演会を聴講した本学の前田係長の報告を掲載しましたので、ご一読下さい。

Current Contents on Diskette with Abstracts 講習会

本年2月から開始しましたCurrent Contents on Diskette with Abstracts自然科学系4部門のネットワークサービスの説明会を下記の通り行いました。カバーする分野が広いせいか、MEDLINEに比較して、関心が高かったようです。参加者合計は常三島地区が17人、蔵本地区が22人でした。

記

常三島地区：2月14日、28日、3月13日、27日

蔵本地区：2月15日、29日、3月14日、28日

Current Contents on Diskette: Engineering, Computing and Technology スタンドアロンでサービス開始 (本館)

従来、冊子形態で継続購読していました Current Contents: Engineering, Computing and Technology を、フロッピー形態で購読するよう変更しました。本館2階の情報検索コーナーに設置してあります Macintosh で運用しています。冊子形態より検索が簡単に行え、フロッピーをお持ちいただければ、データを保存することができます。残念ながら、Abstracts は添付されていません。

電子掲示板設置

本館は2階玄関の風除室、分館は1階東玄関の左側に電子掲示板を設置しました。共通教育関係の情報、図書館からのお知らせなど、掲示しますのでご覧ください。これは、ホワイトボード様のフィルムにFAXを経由して出力するものです。

自己点検評価委員会報告書『大学図書館と学術情報サービスの発展をめざして』刊行

附属図書館自己点検・評価委員会は、平成4年12月に発行された「徳島大学の現状と課題」において、附属図書館が抱える多くの課題を報告しました。

今回の報告書は、その後3年間に附属図書館がどう改善されたか点検を行うとともに、今後の展望と課題について取りまとめたものです。



自己点検評価委員会報告書表紙

ガイダンス

電子メールによる校費学外文献複写・図書貸借の図書館への申込み(本館)

学術情報係

本館では、平成7年度から電子メールによる校費学外文献複写申込・現物貸借の受付を試行していましたが、平成8年度から正式に運用を開始しました。

分館については、電子メール対応のワークステーション、ソフトウェアの手当てができないため、今回は対応できません。

私費については、校費申込みと混同しないように以前は申込書を色分けしていました。経費の国立大学間決裁をオンラインで行っている関係上、誤りが

許されないからです。今回は、校費に限らせていただきますのでご了承ください。

附属図書館全体の電子計算機システムが更新される平成9年度、この電子メールによる申込みがシステムの中に組み込まれるのに合わせ、分館対応、私費申込みを検討したいと考えています。その際には、また具体的な方法がよりよい方向に変更されることとなりますので、ご了承ください。

それでは、今回のシステムについて、ご説明します。

1. 使用できる条件

- 電子メールを使用できる環境にあること

2. 使用開始のための申込み

電子メールで下記のメールアドレス宛, 「subject: ILL MAIL-FORM」としてお申込みください。

申込書 FORM, 注意事項等が自動的に電子メールで送られます。

記

ill.form@lib.tokushima-u.ac.jp

3. 使用方法

以下に, 2. で触れました「申込書 FORM, 注意事項等」を掲載します。

(1) 申込書 FORM

- この FORM をコピーして, 必要事項を入力の上, 電子メールで下記宛お送りください。

記

ill@lib.tokushima-u.ac.jp

学外文献申込書 (校費)

氏名 :
学部・教室等 :
身分 :

文献複写 (雑誌, 図書, 特許, その他)
図書貸借

1. 資料名 :
2. 巻, 号, 頁 :
3. 出版年 :
4. 編集者 :
5. 著者 :
6. 論題 :

申込範囲 :
備考欄 :

(2) 共通の注意事項

- 整理の都合上, 電子メール 1 通につき, 申込書 1 通のみとしてください。

くれぐれも, 電子メール 1 通に20通の申込書を記入したりしないようにしてください。

- 学外文献申込書用紙と同じで, 申込者の氏名, 学部学科教室, 職名を, きっちり記入しておいて下さい。

- 電子メールの subject には, 何も記入しないで下さい。

- 現物を受け取る時には, 名義人の印鑑又はサインが必要です。

- 申込の種別 (文献複写 (雑誌) か, 図書貸借か, など) の欄に, ちゃんと*マークを入れておくのを忘れないで下さい。

(3) 記入例と個別注意事項

(入力事項: アンダーライン部分, 以下同じ)

① 文献複写 (雑誌) の場合

学外文献申込書 (校費)

氏名 : 徳島花子
学部・教室等 : 工学部 機械工学科 X-8
身分 : 助教授

*文献複写 (*雑誌, 図書, 特許, その他)
図書貸借

1. 資料名 : international nantoka zassi
2. 巻, 号, 頁 : 19巻, 3-4号, 196-216頁
3. 出版年 : 1994年
4. 編集者 :
5. 著者 : Nanno, Daresore
6. 論題 : iroirogochagocha

申込範囲 : BL まで
備考欄 :

- 申込種別の欄 (“*文献複写 (*雑誌, 図書, 特許, その他)”の部分) に, *マークを記入するのを忘れないようにして下さい (繰り返しになります)。

- “4. 編集者”は, この場合, 記入しなくてもけっ

こうです。

●備考欄には、文献を探す上で役に立つと思われる情報や、連絡事項等をご記入下さい。

② 文献複写 (図書) の場合

学外文献申込書 (校費)

氏名 : 徳島花子
 学部・教室等 : 工学部 機械工学科 X-8
 身分 : 助教授

*文献複写 (雑誌, *図書, 特許, その他)
 図書貸借

1. 資料名 : international nantoka
2. 巻, 号, 頁 : 121-161頁
3. 出版年 : 1994年
4. 編集者 : Dokono, Dareka
5. 著者 : Nanno, Daresore
6. 論題 : iroirogochagocha

申込範囲 : BL まで
 備考欄 :

●“4. 編集者名” は、その単行本の編集者の名前です。*

●“5. 著者” は、あなたの申し込む論文の著者の名前です。

*最近、論文集や、多人数の著者のいる図書の申込が増えていきます。こういう図書を探すには、“4. 編集者名” の記述が、大変ありがたいのです。編集者が不明だったり、1人の著者によって書かれた本の場合は、“4. 編集者名” は、記入しなくてもけっこうです。

●備考欄に出版社名を記入しておいて下さい (もし分かるようでしたら)。

③ 文献複写 (特許) の場合

学外文献申込書 (校費)

氏名 : 徳島花子

学部・教室等 : 工学部 機械工学科 X-8
 身分 : 助教授

*文献複写 (雑誌, 図書, *特許, その他)
 図書貸借

1. 資料名 : U. S. P.
2. 巻, 号, 頁 : 1 2 3 4 5 6
3. 出版年 : 1994年
4. 編集者 :
5. 著者 :
6. 論題 :

申込範囲 :
 備考欄 :

●“1. 資料名” の所には、U.S.P.か、特許 (公開) か、特許 (広告) か、それ以外か、わかるように書いておいて下さい。

●“2. 巻, 号, 頁” の所には、特許の番号を、正確に記入して下さい。

●“3. 出版年” も、忘れずに、記入してください。

●4~6. は、記入しなくてもけっこうです。

④ 図書貸借の場合

学外文献申込書 (校費)

氏名 : 徳島花子
 学部・教室 : 工学部 機械工学科 X-8
 身分 : 助教授

文献複写 (雑誌, 図書, 特許, その他)
 *図書貸借

1. 資料名 : international nantoka
2. 巻, 号, 頁 :
3. 出版年 : 1994年
4. 編集者 : Dokono, Dareka
5. 著者 : Nanno, Daresore
6. 論題 :

申込範囲 :
 備考欄 :

●備考欄に出版社名を記入しておいて下さい (もし分かるようでしたら)。

新規購読雑誌増加に伴う配架場所拡張（本館）

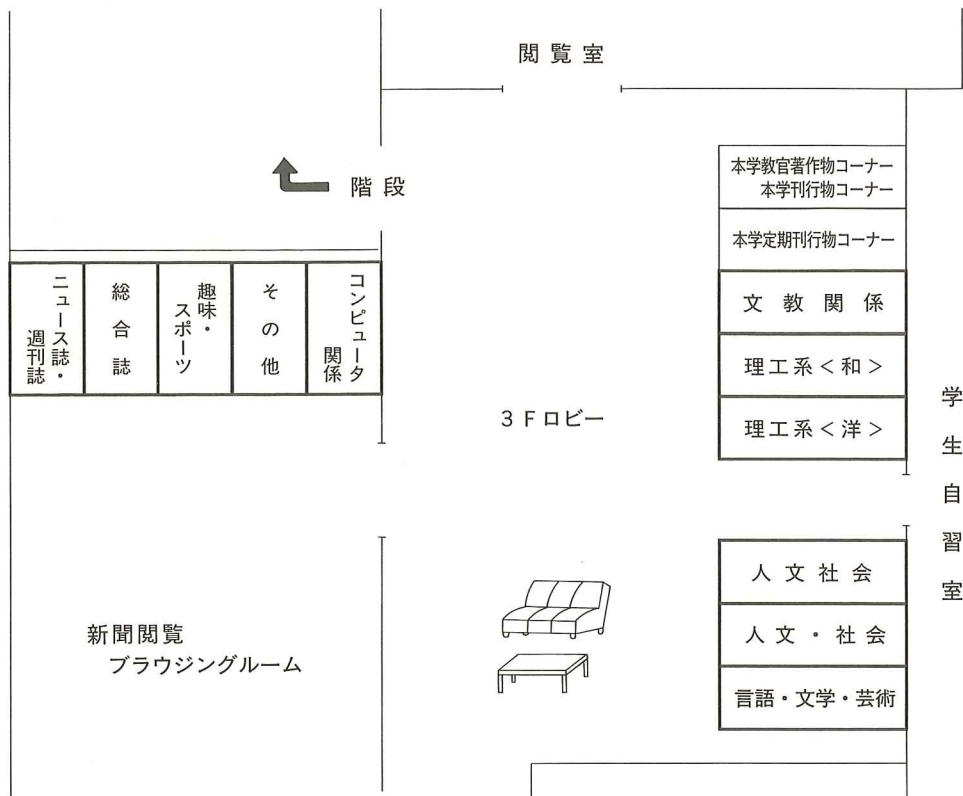
情報サービス係

図書館では、受入雑誌（学術雑誌）が増加したことに伴い、1月から、雑誌の配架位置を変更しました。主な変更点は以下のとおりです。

1. 学術雑誌は原則として、3階ロビーに置く。
2. 週刊誌や一般教養雑誌（軽い読み物）は、新聞雑誌閲覧ブラウジングルームに置く。
3. 雑誌は分野別に配架する。

雑誌は下の図のように配架し、同一分野の中では誌名のアルファベット順に並べています。最初はわかりにくいかも知れませんが、次の雑誌リストも参照しながら、欲しい雑誌を探してみてください。（なお、配架する雑誌の種類は、新年度に多少の増減があるかも知れません。）

《 図 》



ブラウジングコーナーに配架する雑誌

<ニュース誌・週刊誌>

- ・ AERA ・ アサヒグラフ ・ Asia Week ・ Newsweek ・ Newsweek (日本版)
- ・ Spiegel ・ Time ・ US News ・ サンデー毎日 ・ 週刊朝日
- ・ 週刊ベースボール ・ 週刊新潮

<週刊誌・総合誌>

- ・ AMUSE (毎日グラフ) ・ 文芸春秋 (別冊とも) ・ 中央公論
- ・ 婦人公論 (別冊とも) ・ 現代 ・ HIRAGANA TIMES ・ More
- ・ 世界 ・ 諸君 ・ 太陽

<趣味・スポーツ>

- ・ アサヒカメラ ・ Be-Pal ・ 岳人 ・ 芸術新潮 ・ 本の雑誌 ・ 時刻表
- ・ キネマ旬報 ・ 暮らしの手帖 ・ Number ・ 音楽の友 ・ オール読物 ・ OUTDOOR
- ・ Quark ・ 旅行読売 ・ サウンドレコパル ・ 小説新潮 ・ 旅

<その他>

- ・ 朝鮮画報 ・ フォト ・ いまじねーしょん ・ 国際機関職員募集情報
- ・ 国際協力 ・ 光華 ・ LOOK JAPAN ・ 神州学人

<コンピュータ関係>

- ・ ASCII ・ Bit ・ インターネットマガジン ・ 日経バイト
- ・ 日経コンピュータ ・ 日経 Mac ・ 日経パソコン ・ Sun World
- ・ Unix Magazine ・ Byte

3階ロビーに配架する雑誌

<理工系 (和)>

- ・ Basic 数学 ・ 現代科学 ・ JAMA 日本語版 ・ 科学 ・ 科学朝日
- ・ 熱帯雨林情報 ・ 日本の科学者 ・ 日経サイエンス ・ ニュートン ・ パリティ
- ・ ラジオ技術 ・ 数学セミナー ・ 数理科学

<理工系 (洋)>

- ・ Accounts of Chemical Research ・ Arkiv For Matematik ・ EEG Journal
- ・ Environment and Planning : B ・ Environment and Planning : C
- ・ Environment and Planning : D ・ Instructional Science
- ・ International Journal of Modern Physics ・ Journal D'Analyse Mathematique
- ・ Journal of Environmental Systems ・ Journal of Fluid Mechanics
- ・ The Mathematical Intelligencer ・ National Geographic ・ Nature
- ・ Review of Scientific Instruments ・ Science ・ Scientific American
- ・ Siam

<人文・社会>

- ・ 文物 ・ 仏教 ・ 朝鮮学報 ・ 現代思想 ・ 発達心理学研究
- ・ へるめす ・ 比較文明 ・ 比較思想研究 ・ 法学セミナー ・ 住民と自治 ・ 科学哲学
- ・ 経済 ・ 経済セミナー ・ 教育哲学研究 ・ 九州中国学会報 ・ 人間と環境 ・ 倫理学年報
- ・ 史林 ・ 思想の科学 ・ 哲学 ・ 東方宗教 ・ ワールドウォッチ
- ・ Economist ・ Family and Consumer Sciences Research Journal ・ Foreign Affairs
- ・ International Journal of Psychology ・ Journal of Experimental Child Psychology

<言語・文学・芸術>

- ・ 文学 ・ 文学界 ・ 英語教育 ・ 英語青年 ・ English Journal ・ ふらんす
- ・ 言語／月刊 ・ 言語研究 ・ 群像 ・ 日本の美術 ・ 短歌 ・ 短歌研究
- ・ ユリイカ ・ Ambiente ・ Art in America ・ Art News ・ Discourse Processes
- ・ Esquire ・ Frash Art International ・ Literary and Linguistic Computing
- ・ Modern Language Journal ・ Zielsprache Deutsch

資料情報

AV資料おすすめの1本 (本館)

ワーグナーのロマン歌劇『ローエングリン』

総合科学部教授 石川 榮 作



本学附属図書館（本館）所蔵のレーザー・ディスク (LD) の中から今回はワーグナーの初期の作品『ローエングリン』（1848年完成、1850年初演）をお薦めしたい。この作品はワーグナー自身が「ロマン派オペラ」と称しているように、ワーグナーの全作品の中でも最も夢想的でロマンティックなオペラの魅力にあふれている。そのあらすじ(全三幕)をまず簡単に紹介すると、ブラバント公国の姫エルザは、ドイツ国王の面前でテルラムント伯から弟殺しの罪を訴えられる。決闘裁判によって自らの正義を証明する騎士を催促されたエルザは、夢に見た騎士が自分を救ってくれると答えて、懸命に祈る。すると奇跡が起こり、夢に見た騎士が白鳥の曳く小舟に乗って現われる。騎士は決闘でテルラムント伯を打ち負かして、エルザの潔白を証明する。騎士はエルザと結婚するにあたって、自分の名前と素性を決して尋ねてはならないと告げておいたが、テルラムント伯の妻オルトルートに唆されたエルザは、婚礼の晩に夫を慕うあまり、その禁断の質問を発してしまう。騎士は国王や人々の前で、自分は神の国の聖杯王パルジファルの子ローエングリンであることを打ち明け、聖なる秘密が破られた上はもはやこの地にとどまることは許されない旨を告げる。そこへ白鳥が再び小舟を曳いて現われたが、ローエングリンは魔女オルトルートの魔法を解いて、その白鳥をエルザの弟の姿に戻す

と、その地を去って行く。エルザは騎士との別れの悲しみのあまり、その場に倒れて息絶えてしまう。

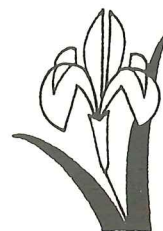
本学附属図書館（本館）に所蔵されている『ローエングリン』（コレクション番号 LD 395-6）は、1986年1月にメトロポリタン歌劇場においてライブ収録されたもので、圧巻は何と言っても「^は嵌まり役」と絶賛されるペーター・ホフマン（テノール）のローエングリンがブラバント国に初めて姿を現わす場面（第一幕）と自らの素性を明かしてその国を去って行く場面（第三幕）であろう。神に近い存在のローエングリンを完璧に演じ切っている。これに対してエルザ役のエヴァ・マルトン（ソプラノ）は確かに第一幕においては物足りなさを感じるかも知れないが、しかし第二幕の終わりから第三幕にかけての熱演は見事で、特に夫の素性を尋ねた後に見せる本物の涙には深い感動を覚えずにはいられない。またこの二人の敵役であるテルラムント伯（レイフ・ロール）とその妻オルトルート（レオニー・リザネク）の絶唱も見落とすことはできない。殊にオルトルート役のリザネクの絶叫の恐怖感には迫力があり、この魔女の絶妙な演技によって作品全体がひきしまったものとなっている。さらにジェームズ・レヴァイン指揮の音楽も魅力的で、聴く者をグイグイと引っ張り込んでいって、決して退屈させはしない。まさにワーグナーの初期のロマンティックな魅力をあますところなく感じさせる作品である。この作品が初演以来、例えばバイエルン国王ルートヴィヒ二世（1845-86）やドイツの作家トーマス・マン（1875-1955）などを魅了し続けてきたのも頷ける。少年時代にこの作品の^{とりこ}虜となったトーマス・マンは、その体験を自伝的な長編小説『ブッデンブローク家の人々』（1900年）においてハンノ少年の物語（第十一部）の中に織り込んでいる。ドイツ文化の理解のためには是非とも一度鑑賞しておくべき価値のある作品であると言っても決して過言ではないであろう。

学生希望図書一覧

図書館では、1994年度より、学生からの図書購入希望の受け付けを本格的に始めましたが、皆さんご存じでしょうか？2年が経過して、様々な購入希望が出され、実際に購入されています。以下に、その一部をまとめてみました。

著者名	書名	出版社	請求記号
石崎 秀夫	機長のかばん	講談社	538.8/Is
国際連合広報局	国際連合の基礎知識	世界の動き社	329.33/Ko
佐藤 巧	日本国憲法概説	学陽書房	323.14/Sa
南 博	日本人論 明治から今日まで	岩波書店	361.42/Mi
新倉 俊一	フランス中世断章	岩波書店	950.24/Ni
S. F. Zakrzewski	入門環境汚染のトキシコロジー	化学同人	491.59/Za
歴史学研究会	講座世界史 1 世界史とは何か	東京大学出版会	209/Ko/1
大岩 正芳	化学者のための数学十講	化学同人	430.7/Oi
山口 誠哉	環境疫学	技報堂出版	498.6/Ya
小川 利紘	大気の物理化学	東京堂出版	451.3/Og
ハーバート・ブルーマー	産業化論再考	勁草書房	361.5/Bl
サミュエル・H・バロンデス	心の病気と分子生物学	日経サイエンス社	493.7/Ba
H.アントン	アントンのやさしい線型代数	現代数学社	411.3/An
渡辺 茂	ROE【株主資本利益率】	革命東洋経済新報社	336.8/Wa
	マグロウヒル大学演習デジタル回路	オーム社	549.3/To
泉・小川 他	化学文献の調べ方 第4版	化学同人	430.7/Ka
日野原 重明	現代医療への提言	岩波書店	498.04/Hi
ヴァルター・ベンヤミン	パサージュ論 全5巻	岩波書店	944/Be/1~5
前川 守	1000万人のコンピュータ科学 全5巻	岩波書店	007/Ma/1~5
ヘルベルト・ラウファー	ジャガイモ伝播考	博品社	616.8/La

以上のように、希望の内容は、講義・研究に関連するものから、自分自身のライフワーク(?)に関するものまで多岐にわたっています。希望を出してもすぐに図書が入ってこないという苦情もありますが、個人では入手しにくい資料を購入できるという利点もあります。多いに活用してください。



本学教官著作寄贈図書一覧（平成7年12月～平成8年3月受入分）

下記の著作が寄贈されましたので、新たに設けたコーナーに配架して、利用に供しています。寄贈者の方々に改めてお礼を申し上げます。

本館

著者名	書名	出版社	寄贈者
村上仁士	海からの警告	中央印刷株式会社	村上仁士
東潮	日本の古代 3～海をこえての交流～	中公文庫	東潮
東潮	高句麗の歴史と遺跡	中央公論社	東潮

分館

村上光太郎 [監修]	真の健康をとりもどすための民間薬草療法	法研	村上光太郎
松本圭蔵	続 三折肱	私家版	松本圭蔵
高杉益充 [監修]	薬剤識別コード事典 平成8年改訂版	医薬ジャーナル社	高杉益充
高杉益充編	薬効別 医薬品の適正使用指針	医薬ジャーナル社	高杉益充

報 告

学術講演会『ライブラリアンシップにいま何が問われているか』を聴講して

雑誌情報係長 前田 あつこ

徳島大学附属図書館では平成3年度より図書館界で活躍されている先生方をお招きし、学術情報に関する講演会を開催している。この講演会は本学の図書館員だけでなく、県内の他大学や香川県、高知県などからも毎年参加いただき、活発な交流の場ともなっている。情報化社会といわれるこの時代に、情報供給機関の一つとしての大学図書館が何を期待され、そのために何を行なえばいいのか。毎年多くの問題を提起し続け、ともすれば日常業務に追われるままに新しい事柄に取り組む努力を怠りがちのわれわれ図書館員に多くの刺激を与えてきた。

第5回を迎えた今年の講演会では、関西大学の倉橋英逸教授による「ライブラリアンシップにいま何が問われているか」と題する講演が行われた。倉橋教授によれば、社会の変化、大学の変化とともに大学図書館も変化し、それは必然的に図書館員にも変

化を迫り、新しいライブラリアンシップが求められているという。そして、図書館員の変化として、館内では“make”から“buy”への変化、“producer”から“manager”への変化を、館外では広い視野とバランス感覚をもってコミュニケーションを行っていく“境界調整任務 (boundary spanning roll)”の重要性を挙げられた。

たしかに大学図書館は、学術情報センターを中心としたコンピュータによる学術情報ネットワークの構築によってその業務は大きく変化した。それまでの図書館員は、自館の資料は自分たちで、タイトル、著者、発行年、ページ数などの書誌的事項をカードにタイピングして目録を作成し、自館の利用者に提供してきた。それがコンピュータネットワークを通じて各大学が共同で目録を作成するようになり、他館の図書館員が作った目録を取り込むことで自館の

目録にすることができるようになった。まさしく、倉橋教授の言われる”make”から”buy”への変化である。検索の方法もカード目録で1枚1枚探し出すのではなく、コンピュータに著者名やキーワードを打ち込むことですばやく見つけ出せるようになった。また、共同目録作成と同時に各大学が所蔵情報を登録することで、どこの大学でどのような資料をもっているのか、個々に問い合わせることなく容易に知ることができるようになり、複写や現物貸出が可能かどうか、といったサービス情報までわかるようになった。さらに、今話題のインターネットの拡がり、利用者自身による国内、国外の情報収集をも可能にしている。

こうなると、図書館員の仕事もかつてのような“本の番人”だけではすまなくなり、自館の資料に精通していることはもちろん、多岐にわたる利用者の要求をいかに迅速に、かつ確実に提供していくのが問われるようになってきた。当館が現在直面している問題の一つに常三島地区の学術雑誌の集中化問題がある。各研究室に分散している資料を図書館に集中することで、重複を減らすと同時に、利用者の利

用の便をはかろうというものである。大学の研究機関としての役割を考えれば、各教官の身近に置いて利用の便をはかっていくことは当然であろう。しかし、近年の学際的な研究への対応、あるいは大学の教育機関としての役割から、研究室に属さない数多くの学生や年々増加する外国人留学生、大学院生の利用の便も考慮していかなければならない図書館の使命がある。また、情報が増えれば増えるほど、利用者の要求を自館だけでまかなうことは不可能であり、大学間の相互利用が活発になり、他館からの利用も増えてくる。各教官に対して、こうした図書館サービスの実態をいかに説明し、調整し、理想の図書館に近づけていくのか。倉橋教授の言われるとおり、ここでは広い視野とバランス感覚を持った“境界調整任務”の遂行者としての図書館員が求められていよう。

時代の要請に応えうる理想の図書館を作り上げるために今私たち図書館員がなすべきことは多い。たとえわずかでもそのための努力をしていきたい。気持ちを引き締められた今回の学術講演会であった。

図書館日誌

会 議

ここには、平成7年度に開催された会議名及び回数の一覧を掲載しました。次号以降は、日付順の会議一覧を掲載する予定です。

会 議 名	回数	会 議 名	回数
運営委員会	6	常三島地区図書選定委員会	2
常三島地区運営委員会	11	医学部図書委員会	2
蔵本分館運営委員会	4	薬学部図書委員会	1
自己点検・評価委員会	2	蔵本分館学生用図書選定委員会	2
館報編集委員会	3	係長会議	7
専用電算機仕様策定委員会	2		

人 事 往 来

	氏 名	新 官 職	旧 官 職	発 令
退 職	津 霸 小 香		情報サービス係	平成8.3.22
辞 職	青 山 吉 隆		図書館長	平成8.3.31
退 職	北 村 武 夫		事務部長	〃
〃	尾 原 忠 雄		図書館専門員	〃
〃	芳 川 詩		情報サービス係長	〃
新 任	河 野 清	図書館長		平成8.4.1
転 任	坂 上 光 明	事務部長	東京大学情報サービス課長	〃
昇 任	元 山 光 代	図書館専門員	図書情報係長	〃
配置換	小 倉 勝	厚生課専門職員	総務係長	〃
〃	瀧 本 正	総務係長	工業短大総務係長	〃
〃	上 田 智 一	図書情報係長	雑誌情報係長	〃
昇 任	前 田 あつこ	雑誌情報係長	図書情報主任	〃
配置換	近 藤 英 子	情報サービス係長	分館情報調査係長	〃
転 任	吉 田 敬 治	分館情報サービス係長	鳴教大目録情報主任	〃
配置換	櫻 木 強	分館情報調査係長	分館情報サービス係長	〃
〃	西 村 真 治	医学部経理係経理主任	総務主任	〃
〃	真 木 克 之	総務主任	薬学部会計係会計主任	〃
〃	岩 森 清 澄	医学部総務課職員係	分館資料情報係	〃
〃	小 林 保 数	分館資料情報係	総合科学部会計係	〃
〃	小 松 美 樹	分館情報調査係	学術情報係	〃
転 任	上 原 佐知子	鳴教大情報サービス係	分館情報調査係	〃
採 用	揚 野 敏 光	図書情報係		〃
〃	横 川 紀 子	学術情報係		〃
配置換	真 鍋 佳 子	図書情報係	分館資料情報係	〃
〃	相 原 三恵子	分館資料情報係	図書情報係	〃

編集後記

編集事務を担当して1年が経過しました。この間、図書館運営、図書館サービス、についての広報誌である「すだち」が、その役目を十分に果たしたかどうか、読者の評価を知りたいと思います。また、館報の役目が、一方的な広報に終わっていいのかどうか。それなら、利用者の声を公平に反映する掲示板のような役割を果たす、他の媒体が必要なのではないか、と想ったりしています。(Y.O)

編集委員会：委員長・河野 清 委 員・林, 姫野, 隅田, 瀧本, 折原, 吉田

発 行：徳島大学附属図書館

(〒770) 徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島(0886)56-7584 内線(6111)

FAX 附属図書館(本館)(0886)55-9593 蔵本分館(0886)33-2950